

# 千年の風土を未来につなぐ NEW 黒田庄づくり

— 黒田庄地区まちづくり計画 —



平成 29 年(2017 年) 3 月

黒田庄地区まちづくり住民会議

## 目 次

1	まちづくり計画の目的	1
2	まちづくりの目標と方針	3
3	まちづくりの取り組み	4
	(1) ふれあいのある黒田庄づくり	4
	①多世代の交流・学習の場づくり	
	②黒田庄夏まつりの活性化	
	③「ひろば」の活用	
	(2) 暮らしやすい黒田庄づくり	5
	④地域ぐるみの福祉の推進	
	⑤田畑・山・空き家の管理・活用、環境保全	
	⑥防災・防犯、交通安全	
	(3) 魅力ある黒田庄づくり	6
	⑦黒田庄の特産品づくり	
	⑧歴史と文化のまちづくり	
	⑨観光レクリエーションの推進	
	(4) 成長発展する黒田庄づくり	7
	⑩地域自治協議会の設立・運営	
	⑪人材の育成と活用	
	⑫情報の発信	
4	まちづくりの進め方	8
資 料		9
1	黒田庄地区の現状（詳細）	10
2	くろっこ会議の記録	11
	・第1回 黒田庄地区を知ろう	11
	・第2回 前計画を評価しよう	12
	・第3回 まちを再発見しよう	14
	・第4回 こんな黒田庄をつくりたい	19
	・第5回 黒田庄のまちづくりを改めて考えよう	21
	・第6回 みんなで取り組む計画をつくろう	24
	・第7回 まちづくり計画とスケジュールを考えよう	25
	・第8回 女性・若い人が参加できる方法を考えよう	26
	・第9回 計画を共有し発進しよう	26
3	黒田庄地区まちづくりアンケート調査結果	27
4	黒田庄地区まちづくり計画見直し・地域自治協議会検討委員会 （くろっこ会議）委員名簿	34

# 1 まちづくり計画の目的

西脇市の北東部に加古川に沿って広がる黒田庄地区は、「播磨国風土記」の時代から千年以上栄え、豊かな地域として持続してきました。自然（加古川・門柳川沿い、白山、ホタルなど）、歴史（兵主神社、荘厳寺、蛭子神社など）、レクリエーション施設（日本のへそ日時計の丘公園・フォルクスガーデンなど）に恵まれたところです。かつて播州織や播州毛鉤でも有名でした。人々はやさしく、14の区を単位とする伝統的なコミュニティ（地域社会）も維持され、交通や買物、医療や福祉などにも比較的恵まれて来ました。



加古川



兵主神社



日時計の丘公園

しかし、少子高齢化や若者の転出などとともに、人々のふれあいや地区の活力が低下し、次のような問題や課題が現れるようになってきました。

- 例・コミュニティの固定化（女性・若者の活動や参加、地区全体の交流の減少）
- ・高齢者等の中には買物や移動手段に困る人もいる。
  - ・空き家、休耕田、獣害など、個人や各集落で対応困難な問題も出てきた。
  - ・働く場が少なく、特産品や歴史・レクリエーション資源も十分活かされていない。

黒田庄地区では平成20年（2008年）3月に「西脇市黒田庄地区まちづくり計画」を策定し、「黒田庄地区まちづくり住民会議」が中心になって様々な取り組みを行ってきました。策定から8年が経過し、地区をとりまく環境も変化したことから、まちづくり計画を見直す必要が生じていました。また、人口減少等に対応し、地域の特性を生かした自治を推進するために市が進めている「地域自治協議会」のモデル事業の実施に向け、具体化が必要でした。

この計画は、地区住民による計9回の意見交換会（くろっこ会議）を通じて、約10年先を見通したまちづくり計画として作成したものです。黒田庄地区に住む私たちは、黒田庄の様々な資源（ヒト・モノ・カネ・情報・人間関係など）を活かし、地区の様々な人・団体と連携しながら、新しい黒田庄のまちづくりに取り組みます。

## ■くろっこ会議の開催経緯

月日	テーマ	会議
6月29日	黒田庄地区を知ろう	黒っこプラザ
7月21日	前計画を評価しよう	黒っこプラザ
8月28日	まちを再発見しよう	黒田庄地区
9月28日	こんな黒田庄をつくりたい	黒っこプラザ
10月28日	黒田庄のまちづくりを改めて考えよう	黒っこプラザ
11月29日	みんなで取り組む計画をつくろう	黒っこプラザ
12月21日	まちづくり計画とスケジュールを考えよう	黒っこプラザ
1月30日	女性・若い人が参加できる方法を考えよう	黒っこプラザ
2月27日	計画を共有し発進しよう	黒っこプラザ

■黒田庄地区のあらまし



## 2 まちづくりの目標と方針

黒田庄は、「播磨国風土記」にも記された1300年以上続く由緒ある地域です。平成17年（2005年）に西脇市になりましたが、黒田庄特有の自然・歴史・文化・人柄などは変わらず、人々は黒田庄に住むことを誇りにしています。人口の減少や高齢化、これに伴う様々な問題を抱えていますが、千年以上かけて培われた風土を誇りに、今ある課題を解決し、持続可能な新しい黒田庄をつくっていく必要があります。そのためにも、地域の様々な人や団体が参加して話し合い、必要な取り組みを協働していく「地域自治協議会」の設立をめざし、人々が安心して暮らせ、訪れる人にも魅力ある、次の世代にバトンタッチできる新しい黒田庄づくりをみんなで進めます。

このような考えのもと、約10年先を見通した黒田庄のまちづくりの目標と方針を次のように定めます。

### 《目 標》

千年の風土を未来につなげる  
NEW 黒田庄づくり

### 《方 針》

元気なコミュニティをつくり  
ます

若者・女性の参画、高齢者の活躍の場や地区全体の交流機会づくりを進め、いきいきとしたコミュニティを再生します。

持続する黒田庄づくりに力を  
合わせます

安心して住み続けられる魅力ある黒田庄づくりに向けて、黒田庄の様々な人・団体が話し合い、力を合わせます。

活力ある新しい黒田庄を開拓  
します

次世代に継承できる活力ある黒田庄づくりに向けて、資源の活用やネットワーク、情報発信、外との連携を進めます。

### 3 まちづくりの取り組み

#### (1) ふれあいのある黒田庄づくり

##### ①多世代の交流・学習の場づくり

###### 《交流カフェづくり》

- ・黒田庄地区の住民が集まって、お茶を飲みながら気楽に交流できる場（カフェ）づくりをコミセン（黒っこプラザ）などで進めます。
- ・各町でのカフェの開催、若者が将来について話したり夢中で取り組める場づくりなどを支援します。※空き家・空き店舗を活用したカフェ



コミセン（黒っこプラザ）

###### 《生涯学習・スポーツの振興》

- ・文化団体・NPOなどと協働し、企画・運営への女性・若者の参加、高齢者の活用を図りながら、まちづくり研究や住民が身近に学び交流できる学習プログラム（講座・教室など）を実施します。  
※女性・若者によるNEW 黒田庄づくりの検討、黒田庄和牛、ピザ、ヨガ、パステル画、歴史講座、地区全体の文化祭など
- ・スポーツ団体などと協働し、住民が身近にスポーツに親しめるプログラムを実施します。  
※黒田庄地区全体の運動会、学校・地区の合同運動会、登山、カヌー、卓球、グラウンドゴルフなど
- ・人権に関する啓発・学習プログラムを継続実施します。



カヌー教室（秋谷池）



夏まつり

##### ②黒田庄夏まつりの活性化

###### 《西脇市・黒田庄夏まつり》

- ・伝統的な夏まつりを味わえる場として、西脇市民を対象にした楽しい夏まつりを継続開催します。



黒っこふれあい広場（軽トラ市）

##### ③「ひろば」の活用

###### 《黒っこふれあい広場の活用》

- ・黒っこふれあい広場（旧黒田庄町役場跡）の効果的で楽しい活用や管理の方法について研究・具体化します。

###### 《黒田庄駅周辺の活性化（あつまっ亭）》

- ・観光案内、作品展示、カフェ、朝市などに利用されている「あつまっ亭」の今後の活用や管理のあり方について研究・具体化します。



あつまっ亭（移動朝市）

## (2) 暮らしやすい黒田庄づくり

### ④地域ぐるみの福祉の推進

#### 《子育て支援と子どもの見守り》

- ・認定子ども園、福祉団体などと連携して、安心して子育てできる環境づくりを進めます。
- ・子どもの登下校の見守り、高齢者と子どもが遊びや野菜づくりなどを通じて交流できる場づくりを学校・PTAなどと協力して進めます。



高齢者と子どもの交流

#### 《高齢者の健康づくり》

- ・高齢者の健康づくりや在宅で安心して暮らせる環境づくりを関係団体と進めます。

#### 《福祉送迎車の活用》

- ・福祉送迎車の運行とともに、有効利用を進めます（例：平日：従来通りの無償運行、土日：障害者の外出などに貸し出し）。老朽化に伴う新車購入を検討します。



福祉送迎車

#### 《買物支援の検討》

- ・買物困難な地区の支援（例：移動販売車）を将来的に検討します。

### ⑤田畑・山・空き家の管理・活用、環境保全

#### 《農地・空き家の管理活用》

- ・自治協議会が中心になり、休耕田の管理組織づくりをめざします。また、空き家の活用をめざします。  
※コミュニティカフェ、1ターン者用住宅など

#### 《自然環境の保全活用》

- ・豊かな自然の保全と活用を進め、美しい黒田庄をつくれます。※門柳川・加古川・宮池など



宮池

### ⑥防災・防犯、交通安全

#### 《防災・防犯体制づくり》

- ・防災・防犯に関する意識啓発、地区全体の防災体制の強化を進めます。※消防団員の少ない町の支援、若い人の少ない昼間の消防体制など



初期消火訓練

#### 《交通安全等の環境整備》

- ・生活環境に関する設置要望を自治協議会がまとめ、市と協議しながら整備を進めます。  
※道路、水路、ミラー、防犯灯、防犯カメラなど

### (3) 魅力ある黒田庄づくり

#### ⑦黒田庄の特産品づくり

##### 《特産品の開発・PR》

- ・黒田庄の特産品の発掘や開発、広報・PRを進めます。  
※和牛・黒豆・里芋の広報、日時計の丘公園と連携した和牛料理コンテストなど
- ・特産品の販売や情報提供などの拠点整備をめざします。  
※あつまっ亭の拡充、国道175号沿い拠点の整備など



黒田庄和牛のローストビーフ

#### ⑧歴史と文化のまちづくり

##### 《歴史文化ゾーンづくり》

- ・歴史研究会、市観光協会などと協力して、黒田官兵衛を中心とする歴史・文化資源を探访できる「(仮称)官兵衛の里」づくり(史跡・案内板の整備、観光ルート・ガイドブックの作成)を進めます。  
※荘厳寺～姥が懐～滝尾神社～末谷公園
- ・黒田庄地区による「官兵衛まつり」開催をめざします。



荘厳寺

##### 《観光ガイドの育成》

- ・歴史研究会、市観光協会などと協力して、観光ガイドの養成などをめざします。



姥が懐

#### ⑨観光レクリエーションの推進

##### 《観光レクリエーションゾーンづくり》

- ・門柳川沿いの自然とレクリエーション資源を楽しめる「(仮称)門柳川観光レクリエーションゾーン」の一体的な整備、遊べる場づくり、共同イベント開催、広報・PRを進めます。  
※日時計の丘公園(キャンプ、グラウンドゴルフ、バーベキュー、食事)～フォルクスガーデン(庭、カフェ)～ふれあいスタジアム～秋谷池(カヌー)～みのり農協特産開発センター(黒田庄和牛)～白山トレッキング～福谷池・稻荷神社



日時計の丘公園(キャンプ場)

##### 《JR加古川線の利用促進》

- ・JR加古川線の利用促進の呼びかけや「町民ふれあい号」の運行などを進めます。



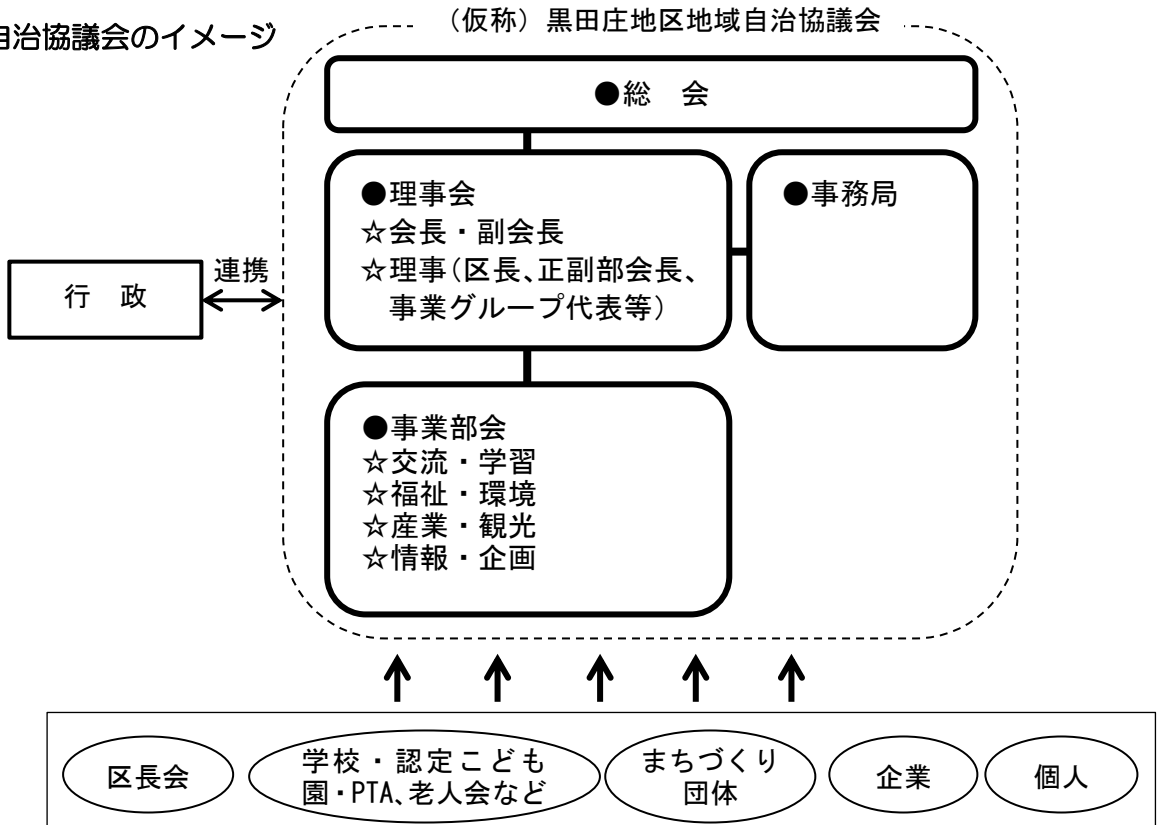
フォルクスガーデン

## (4) 成長発展する黒田庄づくり

### ⑩地域自治協議会の設立・運営

- 多様な団体・人の参加によって地区の課題解決と NEW 黒田庄づくりを進める地域自治協議会を設立・運営します。
- 女性や若い人の参加を積極的に進めるとともに、良い意見を取り入れ、具体化・実現化をはかり、みずから改革をしていく、オープンで柔軟な組織づくりをめざします。

#### ■地域自治協議会のイメージ



### ⑪人材の育成と活用

- 地域自治協議会の事業への女性や若い人の積極的な参加、NEW 黒田庄づくり検討などを通じて、次代を担うリーダーの育成を進めます。  
※中学生・高校生の参加プログラム、まちづくり研究会など

### ⑫情報の発信

#### ◀「黒田庄つうしん」の発行▶

- 黒田庄地区やまちづくりの現状を住民にいきいきと伝え、住民が各種プログラム等に参加できるよう、魅力ある「黒田庄つうしん」の発行を進めます。

#### ◀黒田庄の情報発信▶

- 黒田庄地区の動向や魅力を地区内外に伝え、観光等での来訪者の増大をはかるためにも、SNS 等を活用した黒田庄地区の情報発信を進めます。  
※SNS (ソーシャルネットワークサービス): ホームページ、フェイスブックなど

## 4 まちづくりの進め方

テーマ		1～2年	3～5年	6年～
(1)ふれあいのある黒田庄づくり	①多世代の交流・学習の場づくり	●トライアルカフェの設置 ●女性・若者による NEW 黒田庄づくりの検討	→ 充実 ○若者向け等のカフェづくり ●講座・教室の開催・充実	
	②夏まつりの活性化	○参加団体の拡大と充実		
	③「ひろば」の活用	○黒っこふれあい広場の活用検討	○具体化	
(2)暮らしやすい黒田庄づくり	④地域ぐるみの福祉の推進	○高齢者と子どもの交流の場づくりなど検討 ●福祉送迎車の活用 ●設置する車両の検討	●交流の場づくりなど具体化 ○買物支援の検討	
	⑤田畑・山・空き家の管理・活用、環境保全	○管理団体の活動強化・管理組織の検討 ○自然環境の保全活用	●管理組織の設立	
	⑥防災・防犯、交通安全	○声かけ運動、高齢者・子どもの安全確保	○取り組み	
	⑦黒田庄の特産品づくり	○掘起こし・PRイベント	●取り組み	
(3)魅力ある黒田庄づくり	⑧歴史と文化のまちづくり	○官兵衛の里づくりの拡大	●官兵衛の里づくり整備 ●観光ガイドの育成	
	⑨観光レクリエーションの推進	●関係団体によるゾーンづくり	●共同イベント 広報・PR	
	⑩地域自治協議会の設立・運営	●地域自治協議会の設立	○柔軟な組織運営	
(4)成長発展する黒田庄づくり	⑪人材の育成と活用	○NEW 黒田庄を支える人材づくり	●まちづくり研究会などの開催	
	⑫情報の発信	○魅力ある「黒田庄つうしん」の発行		
		○SNS 等導入の研究	●SNS 等による情報ネットワークづくり	

 は重点的に取り組む内容

# 資 料

# 1 黒田庄地区の現状（詳細）

## ○概況

- ・西脇市の北東部にあり、面積 35.34km<sup>2</sup>、加古川に沿って開けたところ
- ・播磨国風土記に「黒田」と記され、中世に荘園「黒田庄」があるなど、古くから栄えた。
- ・加古川に沿って国道 175 号、JR 加古川線が通り、農地、市街地、集落(14)が広がる。
- ・人口の減少と少子高齢化が進んでいる。大学進学を契機とする若者の流出も要因の一つ

	人口(人)	世帯数(戸)	世帯あたり人口(人/世帯)	高齢化率(%)
平成 23 年	7,528	2,531	2.97	27.62%
平成 28 年	7,008	2,602	2.69	33.06%

※住民基本台帳、ともに 10 月 1 日現在

- ・地区コミュニティセンター（黒っこプラザ）のほか各集落に公民館。保育園（黒田庄、西脇さくら）、幼稚園 2（楠丘、桜丘）、小学校 2（楠丘、桜丘、ともに 1 クラス/学年）、中学校 1（黒田庄、2 クラス/学年）。ほかに黒田庄隣保館、黒田庄福祉センター。

※平成 29 年度から黒田庄保育園は認定こども園に移行し、幼稚園 2 園は廃止される。

## ○自然・歴史・文化などの資源に恵まれている。

- ・加古川・門柳川沿い、白山、秋谷池・福谷池・末谷池、ホテルや水中生物など自然が豊か。自然を活かしたレクリエーション施設も多い（日時計の丘公園、フォルクスガーデン、黒田庄ふれあいスタジアム、白山トレッキングコースなど）。
- ・兵主神社、荘厳寺、姥が懐（伝黒田官兵衛誕生地）、古奈為神社、船町蛭子神社、岡稻荷神社、滝尾神社、石造十三重塔（伝木曾義仲供養塔）など歴史資源が多い。

## ○生活インフラは比較的充実している。

- ・JR 3 駅がある(黒田庄、本黒田、船町口)。運行本数は 1 日 9 往復と少なく、日常的利用は少ない。黒田庄と西脇市街地を結ぶ市コミュニティバス「つくしバス」が 1 日 3 往復運行（月～金）。住民の使いやすさの面で十分でない。
- ・コミュニティバスの利用ができない高齢者及び障がい者の生活支援のために、福祉送迎車（平日、無料）が運行されているが、利用者は限定されている。
- ・店舗は喜多・大門・津万井・岡・田高などに立地、郵便局 2（黒田庄、本黒田簡易）、銀行 2（中兵庫信用金庫、みのり農協）があるが、縁辺部の高齢者等には不便
- ・医療施設は大山病院のほか診療所が点在。高齢者施設は特別養護老人ホーム向陽苑、グループホームさくらんぼ、子育て支援はへそっこランド（黒田庄福祉センター内）などがあり、医療・福祉・子育て面では比較的恵まれている。

## ○特産品づくりが進められる一方、耕作放棄や空き家の問題がある。

- ・伝統産業に播州織、毛鉤があるが盛時の面影はない。神戸ビーフの生産地であり、近年「黒田庄和牛」のブランド化が進められている。黒田庄駅の黒田庄交流拠点施設「あつまっ亭」で地場産野菜等を販売。里いもなどの特産品づくりも進められている。
- ・少子高齢化や後継者難、住民の転出などにより耕作されない田、空き家も見られる。

## ○コミュニティの固定化傾向が見られ、住民・世代間の交流も薄れている。

- ・区や区長を中心とする伝統的なコミュニティが維持され、まとまり感も強いが、女性や若い世代の参加が困難な状況にある。
- ・少子高齢化、行政形態の変更（合併）などによって、かつて盛んであった市民活動や住民間の交流が弱体化傾向にある。

## 2 くろっこ会議の記録

### ■第1回 黒田庄地区を知ろう（6月29日 黒っこプラザ）

黒田庄地区の資源・魅力、問題・課題を出し合いました。

テーマ	良い・好き・財産	ちょっと問題・課題
自然・環境	○自然豊か（田・山）、門柳地区の森林・里山、水おいしい、静かな環境、夜空きれい ○散歩道・トレッキングコースが多い ○加古川水域の水資源	●鹿やイノシシが多い ●宮池の汚水 ●川魚がいない？
人・コミュニティ、地域・市民活動	○真面目でおとなしい人が多い ○元気な年寄りが多い ○小学生があいさつする ○近所づきあい、隣保間の交流、声かけ運動 ○老人クラブが元気 ○市民活動が盛ん（いきいきサロンなど） ○行事にみんなが参加する（夏まつりなど） ○地域グラウンドゴルフ ○運動会（復活させたい）	●人口が減少 ●子どもが少ない、子ども会崩壊寸前 ●若者地元離れ（大学卒業後帰らない） ●独身の男性・女性の増加 ●女性の活動が少ない ●住民の活動できる拠点がない（北部） ●出役時の出役人数が少ない ●年寄りの活躍場所が少ない ●社会貢献しようとする気持ちがない
教育	○学校が充実している ○陸上クラブ ○学校・家庭・地域の協調・連携、子ども見守り隊、PTA活動 ○学校前の駐在所	
買物・飲食	○買物に困らない（店やコンビニがある）	●買物に困る（南部に店ない、車必要） ●飲食店が少ない
医療・福祉	○病院・医院が充実（土日診療など） ○老人ホームやデイサービスがある	
交通	○都心にも近い（神戸から車で1時間） ○国道175号が通っている ○鉄道（JR加古川線）が通っている ○ICまでそう遠くない	●交通が不便（JR・バスの便数） ●国道の歩道狭い、通学路危険（北部） ●カーブミラーが少なく危険 ●ルート175バイパス計画 ●つくしバスの利用が少ない
農業・仕事	○質のいい酒米（山田錦）の産地 ○堆肥が安く利用できる ○休耕田・空き家（利用できる）	●職場が少ない、職住近接でない ●特産品がない ●農業後継者がいない ●草刈りが大変 ●獣害（鹿）がある ●空き家が多い
歴史・文化 観光・レクリエーション	○日時計の丘公園（体験交流、レストラン） ○歴史・文化資源多い（蛭子神社、光福寺、大歳神社参道の窯跡、極楽寺のハスなど） ○門柳山（サントリーの森、清水、環境学習） ○祭りが盛ん（兵主神社の秋祭りなど） ○黒田官兵衛（もっと活用しよう） ○パワースポットが多い ○三角点のご来光参加者の接待	●子どもを連れて遊ぶ公園が少ない ●若者が楽しむ場所が少ない ●地域間のスポーツの交流が少ない ●ふれあいスタジアムの利用が少ない（地元、金額高い）
防災・防犯	○大きな災害が少ない ○防災力が高い（消防団員が多い）	●加古川の水害（防災教育強化が必要） ●避難場所がない・遠い（国道筋側） ●消防団員が減少、少ない（屋間）
イメージ	○他町に比べて都会	●中途半端な田舎

## ■第2回 前計画を評価しよう（7月21日 黒っこプラザ）

「まちづくり計画」（平成20年3月）の達成状況、必要度等について意見交換しました。

1 安心できる子育て環境づくり									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①子育て支援拡充のために、高齢者やボランティアの知恵・能力を活かす工夫をする	2.5	△	△	△	5.0	○	○	○	必要だが十分でない 子育て世代のボランティア活動はできている 不明な点が多い
②集落ごとに、見守り隊や遊び等の交流の場を確保する	3.3	△	△	○	5.0	○	○	○	実施途中で立ち消えた 見守りは一部集落で実施／遊び場はあまりできていない／ ゲートボールの指導を通じた老人と子どもの交流あり 集落行事、年3回実施
③集落や地区の交流・研修する機会を積極的ににつくっていく	3.3	△	△	○	5.0	○	○	○	祭りやとんどでふれあい広場／船町と岡で夏まつり交流 子育て学習センターの活動により交流 研修ができてい る／地区の交流はない 実行済み
2 高齢者の生きがいを共につくる									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①高齢者等の通院 買い物等のおでかけ支援体制（有償 無償ボランティア）をつくる	3.3	○	○	×	5.0	○	○	○	福祉バスの体制は不十分 福祉送迎車の運行
②集落ごとの趣味 娯楽等の活動を広げ、他地区との交流を展開する	3.3	△	○	△	5.0	○	○	○	集落ごとの交流はOK 他村との交流はできていない グラウンドゴルフ、ゲートボールによる交流 船町では年1回実施／地区内はできている／グラウンド ゴルフは盛ん
③日常の隣近所との付き合いや外出を促すために、一声運動などを行う	2.5	△	×	○	5.0	○	○	○	愛育班がなくなり交代している地区もある／できている 村とできていない村が半々
3 集落ごとの安全と安心を確保する									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①歩行者や自転車の安全を確保するために、集落ごとに危険箇所の点検を行う	5.0	○	○	○	5.0	○	○	○	自転車保険の加入、グリーンベルトの設置により安全確保 できている 点検し、危険箇所については市に要望している／グリーン ベルトの施工
②震災や火災などに対応する自主防災体制づくりについて、集落単位で検討する	4.2	○	○	△	5.0	○	○	○	一部の地区を除き制度としてほぼできている 体制づくりができていない 集落によって差あり 被災地は実施)
③廃棄物の不法投棄等の見回り隊を編成し、定期的に点検、監視活動を行う	1.7	△	×	△	4.2	○	△	○	市がパトロール等しているが集落の例は聞かない 定期的ではない
4 集落ごとの特色ある農産物づくり									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①集落ごとの生産活動の取り組みを強め、地域に根ざした生産物づくりを目ざしていく	2.5	△	△	△	4.2	△	○	○	一部グループで行っているが広がりが少ない 個人やグループで実施しているが集落単位ではない／ ブランド化には集落単位の活動が必要 酒米づくりは盛ん
②廃棄物の資源的利用とリサイクル運動を展開する	4.2	△	○	○	5.0	○	○	○	夢アグリ西脇でリサイクル 行政がゴミの減量に取り組んでいる／PTA 子どもの会の 資源ゴミ回収が活発 できている
5 スポーツ文化活動を一層普及									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①スポーツ文化活動の裾野を広げ、グループの連携や組織化を図っていく	1.7	△	×	△	5.0	○	○	○	スポーツ少年団、スポクラ2などを通じて活動／文化活動 のグループ発表は黒田庄ふれあい歩みで行う スポーツはOK 文化活動はできていない
②ふれあいスタジアムは、地元の人たちが利用しやすい方法を検討する	0.0	×	×	×	3.3	○	×	○	利用料は条例で定まっている／地元が優先して使える予 約システムになっていない 外部からの利用が多く地元が利用できていない／料金 体制の検討必要
③文化活動グループの連携と継承の方法を検討していく	0.0	×	×	×	4.2	○	△	○	各グループ活動のみで地域を越えた活動には不足 必要とする人もいるが、大多数が望むことでない
6 地区の自然環境や歴史環境を保全、育成する									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①里山景観や丘陵部の保全のために、トレッキングコースを拡充する	3.3	△	○	△	5.0	○	○	○	白山のハイキングコースが日本トレッキング協会認定コース となっている 白山 妙見山は人気、他のコースの整備必要
②身近な散策路の整備を検討する	1.7	×	○	×	4.2	△	○	○	ウォーキング道として各村で定着 岡、黒田で整備
③神社仏閣の保存、修復は、檀家や氏子と集落との協力 協同の方法を模索する	3.3	○	×	○	3.3	○	×	○	残すものは強制的にでも協力すべき 集落が積極的に関わる問題ではない
④ホテルの生息地付近の水環境を保存しつつ、維持管理の方法を研究する	0.0	×	×	×	4.2	○	△	○	自然環境の保全は大切 人材がいない

7 門柳川流域の多様な自然環境を活かす									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①宮池の水質改善を進めるために、岡を中心とする支援、協力体制をつくる	3.3	○	○	×	4.2	△	○	○	下水道の整備により改善している
②秋谷池付近は、里山として修景保存に努める	5.0	○	○	○	5.0	○	○	○	整備できている
③ふれあいスタジアム付近でのホテル復活のための条件や環境を検討する	0.0	×	×	×	2.5	△	×	○	要望がない／上流でホテルが生息している 人材がない
④認定コースを有するグラウンドゴルフ場づくりを地元主体 協同体制で進めていく	0.8	×	×	△	2.5	○	×	△	日時計の丘公園にできている 認定コースでない) 認定コースの必要性が感じられない

8 まちづくりの支援を広げて行く									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①ゆめバンクと協力、協同して、まちづくり活動支援の情報発信や交流会を企画する	0.8	×	△	×	1.7	×	○	×	西脇市に統合 黒田庄つうしんの発行 ゆめバンクは今でもあるのか？ (H25廃止)
②福祉 環境のコーディネーターやボランティア養成のための研修会等を企画する	1.7	×	△	△	4.2	○	○	△	社協と市が行うように移行 NPOによる支援 福祉は盛んだが環境はない
③住民の能力 知恵 資金等をまちづくり活動に活かす仕組みづくりを検討する	1.7	×	○	×	5.0	○	○	○	西脇市で実施している 住民会議の事業や地域自治協議会の検討が進んでいる

9 行政への要請課題									
計画の内容	達成度	1班	2班	3班	必要度	1班	2班	3班	コメント
①国道 175号バイパスや、県道、市道の整備促進	1.7	△	△	×	5.0	○	○	○	県道は順次整備／国道175号バイパスは未実施 国道175号バイパスはまったく進展していない／県道門柳バイパス、城山の拡幅工事進行中
②旧西脇と旧黒田庄や、市内各施設への移動のための地域公共交通の整備	5.0	○	○	○	4.2	○	○	△	市へ移行したが一部地域への乗り入れがなく、十分でき たと言えない コミュニティバスの運行 利用者が少ない、ルー Hに問題か？
③歩道整備や白線等、通行区分などの安全対策の充実	1.7	△	△	×	5.0	○	○	○	歩道整備は必要 畑瀬～西脇のルー Hが問題／行政にやる気がない
④加古川の治水対策の早期完了を踏まえて、支流の内水対策の推進	2.5	△	△	△	5.0	○	○	○	野尾谷側の整備 福地はできた、西沢、大伏はまだ 一部完成 (福地)
⑤ 魚が食べられる清流「加古川」を目指した水質改善	1.7	△	△	×	5.0	○	○	○	徐々に水質改善、ホテルも増加 兵庫パルプの排水の問題？ 水質基準を厳しくしないと良くならない
⑥資源リサイクルの促進策と廃棄物減量対策の具体化	3.3	×	○	○	5.0	○	○	○	子ども会の活動充実／分別収集ができている

※○：5、△：2.5、×：0を与えて集計の後に平均値を算出。

※3を上回るものに色づけ

0～3未満 あまりできていない、あまり必要でない

3以上～4未満 ややできている、やや必要)

4以上～5 かなりできている、かなり必要)

## ■第3回 まちを再発見しよう（8月28日 黒田庄地区）

黒田庄地区をバス・徒歩で見たあと、感想を出し合いました。

### 1 まちあるきの感想

- A：黒田庄には素晴らしい文化財がある。初めてのところもあり、勉強して輪を広めたい。  
B：いろいろと勉強することができ、私にはすごく良かった。  
C：新しい発見もあり、黒田庄を知ることができた。こうしたまちあるきも大切と感じた。  
D：参加者が少ないのが残念  
E：黒田庄再発見  
F：住民でありながら、他地区の歴史や伝統が引き継がれ、保存されていることに感動した。  
各集落の協力体制や住みやすい環境づくりが必要と痛感した。  
G：自然の成長を生かせることを検討したい。山、川、池など  
H：ひと言で言ったらもったいない！ 末谷池公園、黒田城址  
I：普段知っていてもゆっくり見ない場所で参考になった。歴史的文化財の値打ちを知らない役に立たないと認識しました。

### 2 ここが良い ○○に生かせるのでは？

- B：改修工事等が進み、地区の安全が確保されつつある。自然がたくさん残っている。  
C：ウォーキングで多くの人に黒田庄地域を体験・発見してもらえる計画ができそうな感じを持ちました。健康づくりの事業としては？  
D：末谷池資料館 → 観光資源として活用を  
E：宮池 → ジュンサイ栽培？、浄化の工夫？  
F：黒田城址 → 周辺に果樹園（クリ、ブドウ、ナシなど）を作り観光客を増やす。  
宮池、兵主神社周辺を自然環境（花、緑、池）豊かに作り、自然動物（トンボ、チョウ、野鳥）が集まるようにする（自然観察等研究）。  
H：末谷池公園 → 子どもの遊び場、バーベキュー、黒田城址 → 観光、イベント  
I：十三重の石塔（木曾義仲）、黒田官兵衛、各お宮の言われとそれぞれの時代の関係

### 3 ここは惜しい、ちょっと問題、○○に改善・生かせるのでは？

- B：心ない人のポイ捨て、マナーの問題で少し悲しい。  
C：畑瀬橋東詰交差点、部分的に改善方法を検討してはどうか。交通量も多くなっている。  
D：西沢～大伏の野尾谷川の木柵を観光資源として生かせないか。  
黒っこ広場の一般管理は住民会議全体で行う。  
E：マップ等案内板の工夫  
F：土づくりセンター → 農業研究等の展示、研究施設（周辺の整備）  
野尾谷川 → 根本的な防災の見直し、工事の強化  
G：文化財の発信がないと思う。地元が財産を管理できるようにする。  
H：黒田城址などにもう少し黒田家の説明がほしい。黒田家がなぜ姫路に行ったなど  
I：河川の改修についてはもっと市に働きかける必要あり

### 4 その他

- F：良い研修になった（コミュニケーション強化など）

## 資料：黒田庄地区まちあるきコースの概要

※参照 旧町及び新市広報、北はりま田園空間博物館まるごとガイド及び黒田庄地区区長会資料より

### 1 末谷池公園（すえだにいけこうえん）

江戸末期に 17 年余りの年月をかけ築造された、近隣では類を見ない貯水量 13 万 m<sup>3</sup> の大規模ため池。平成 14 年度に大改修が行われた際、同時に憩いの場としての公園整備も行われ、改修前に使用していた古い木樋が展示されている。



### 2 荘厳寺（しょうごんじ）

652 年法道仙人の開基と伝わる真言宗寺院で、十一面観音菩薩をまつる本堂は立派に修復が完了している。檜皮葺の多宝塔は兵庫県の指定文化財となっている。黒田官兵衛は江戸時代の古文書に黒田村生まれと記されているが、官兵衛家先祖の略系図が所蔵されていたことにより、生誕地であることが裏付けられた。 ※写真は荘厳寺のホームページより



### 3 黒田城址（くろだじょうし）

黒田家歴代が城主を務めた城跡。播磨黒田氏は、赤松円光を元祖とする赤松庶流の一族で、観応 2 年（1351 年）に円光の子・七郎重光がこの黒田城に移り、播磨黒田氏の初代となり、以来その子孫が 9 代、二百数十年にわたり黒田城主として存続した。



### 4 姥が懐（うばがふところ）

城主の邸宅があったところと伝わる場所で、ここが黒田官兵衛の生誕地であると伝わっている。平成 24 年度まちづくり実践補助事業で案内板、石柱等を設置し、生誕地をアピールしている。



### 5 黒中北側通学路交差点

東西南北からの車の往来が激しく、小中学生の通学路に接しており、危険回避のため信号機の設置を要望している。



### 6 船町・小苗間通学路

県道 193 号線及び 294 号線は、丹波地域と西脇市以西を結ぶ重要な通勤ルートで、通行量も年々増加している。朝夕の通学時間帯の危険回避のため、道路拡幅による歩行者、自転車道の確保を要望している。

## 7 古奈為神社（こなえじんじゃ）

奈良時代に台帳登録された式内社で、祭神は安産の神として祀られる「木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）」。

本殿の周囲は立派な彫刻が施され、見応えがある。夏に川下（かわすそ）祭、正月に縄打ち行事がある。境内の櫨は樹齢約 500 年で、県の広葉樹の「母樹」に指定されている。



## 8 蛭子神社（えびすじんじゃ）

西宮蛭子神社の分霊で、明治初期に祀られ、特に商売の神様として多くの参拝者に崇拝されている。1月9・10日の大祭、二十日えびす祭りには丹波・北播磨より広範囲の参拝がある。



## 9 子午線モニュメント

平成元年度のふるさと創生事業の一環で設置された。「裕・遊」をテーマに、黒田庄町出身の高橋正訓氏がデザインを手掛けている。このモニュメントの中央が東経 135 度線上になる。



## 10 田高防災センター

洪水など災害時の活動拠点として平成 15 年度末に完成している。総面積 5,376 m<sup>2</sup>。備蓄庫や食糧庫、会議室を備えた床面積 235 m<sup>2</sup>のセンター内には、土嚢袋や救命ボート、簡易トイレ、非常食などを備蓄している。堤防決壊時には造成で使った土砂が水防活動に活用できることになっている。



## 11 国道 175 号田高北交差点

通行量が多い国道であるが交差点が短いため、国道走行車両の信号無視による事故が多く、市道側が青信号になってもしばらくは進めない状況がある。予備信号機の設置や防犯カメラの設置を要望している。

## 12 土づくりセンター「ゆめめぐり西脇」

平成 21 年 6 月 1 日にオープンした良質堆肥の生産施設で、旧町が平成元年度から進めてきた、化学肥料や農薬の使用を控えた自然に優しい農業「有機の里づくり」のための施設が新市に引き継がれ建設された。計画堆肥量は年間 3,650 t。

※写真は市観光協会のホームページより



## 13 加古川・野尾谷川合流地点

平成 16 年の台風 23 号による浸水被害により野尾谷川の暫定堤防改修を行っているが、材料の木材が腐食しており、現在傷んだ部分の木柵を補修している。加古川右岸には指定避難所がない。大伏公民館も老朽化しており、西沢会館も浸水想定区域内にある。



#### 14 畑瀬橋東詰（市道前坂・津万井線）

旧町時代に緊急地方道路整備事業で新設した町道前坂・津万井線は喜多野向（のむかい）の加古川堤防交差点部までである。そこから南への堤防の拡張と畑瀬橋東詰交差点改良について、早期に整備し完全開通の要望を継続している。



#### 15 加古川・福地川合流地点

加古川の内水排除ができず浸水被害が頻繁に発生している。県の加古川流域圏地域総合治水推進計画（平成 26 年度から 10 年）モデル地区事業により、加古川の河床掘削や福地川の堤防嵩上げ等が進んでいる。（県ホームページ）  
排水ポンプ場の設置は用地確保が済み、工事が進んでいる。



#### 16 宮池

農業用ため池であるが、水質汚染対策が必要である。水質の悪化による藻の繁殖と悪臭、廃棄物投棄が改善されない。前回計画のアンケートでも6割の人が改善必要と回答している。



#### 17 兵主神社（ひょうすじんじゃ）

延暦（えんりゃく）3年（784年）の創立といわれている兵庫県指定文化財。16世紀中期に、豊臣秀吉が三木城の別所長治を攻めた時に、臣下の黒田官兵衛が戦勝祈願に灯明田を献納し、その奉納金で拝殿が改築されたと伝えられている。  
※写真は市観光協会のホームページより



#### 18 十三重の石塔

東光寺南方約 100m の位置にある西脇市指定有形文化財。高さ 4.7m の石塔は鎌倉時代後期（14 世紀）に木曾義仲の供養塔として建立されたと伝えられている。平成 24 年度市のまちづくり実践補助事業により現在の場所に移設された。



#### 19 あつまっ亭

JR 加古川線と町の活性化を目指して平成 17 年度に建て替えられた黒田庄駅舎「あつまっ亭」は、駅舎内のサロンで喫茶・軽食や地元芸術家の作品展示が楽しめ、絵手紙教室も開催するなど、地域の交流拠点となっている。毎月第 3 日曜日の朝市や移動朝市も開催している。



#### 20 黒っこふれあい広場

平成 23 年度まちなか振興モデル事業で整備し、住民が気軽に集まって日常的に活用できる場所として管理している。年末に軽トラ市を開催し、翌年度以降、市のまちづくり実践補助事業で事業を継続しているが、旧町の中心部に賑わいを取り戻す事業を新たに検討したい。

## 21 喜多天満宮（きたてんまんぐう）

室町戦国時代以前に京都北野天満宮より勧進、社堂は元禄5年（1692年）に現在地に遷し、宝暦14年（1764年）に現在の本殿が建造された。拝殿を兼ねた霸殿の中に屋根付き本殿がある珍しいもので、菅原道真公の誕生と命日にあたる3月と7月に例祭が行われる。※写真は市観光協会のホームページより



## 22 秋谷公園

平成12年度に「東はりま緑と水の郷秋谷」として整備。2.7kmの遊歩道や藤棚もあり、展望台から西脇市が見渡せる。春夏秋冬、自然に親しむ環境が整っており、秋谷池と庵谷池の水の美しさに魅せられ、阪神方面からの来客も増え、自然学習、行楽に最適と推されている。※写真は市のホームページより



## 23 サントリーの森

サントリー高砂工場の水源涵養エリアにある門柳の人工林及び里山林（生産森林組合所有林）を中心に1,053haを「天然水の森 ひょうご西脇門柳山」と命名し、地域住民や行政、学識経験者、林業経験者等と連携しながら、水源涵養林として高い機能を持つ森に育てるとともに、生物の多様性を保全し、人々が自然と接することのできる森づくりを進めている。※解説文、写真ともサントリーのホームページより



## 24 日時計の丘公園

平成5年度にオープンした県立公園にある、日本オートキャンプ協会5つ星に認定された全国でも有数のオートキャンプ場。西脇市に移管され、平成25年3月にリニューアル。農家レストラン、体験棟、グラウンドゴルフ場もある。



《まちあるきの地点》



## ■第4回 こんな黒田庄をつくりたい（9月28日 黒っこプラザ）

これからの取り組みについて話し合いました。

### ①集まる・つながる、文化・スポーツ、人育て、若人・女性の活躍

#### 《交流の場や機会をつくろう》

○自分たちが楽しくやろう

○地域間の交流を深めよう

- ・隣保間のつながりの希薄化を防ぐ
- ・まつり以外にも地域間の交流、つながりをつくる催し（いかだ下り大会の復活）
- ・姉妹地区による交流

○市民交流にコミセンを活用し、新しい場をつくる

- ・コミセンの活用（地区活動の拠点となるメニュー）  
絵画・写真等の展示、映画鑑賞会、コンサート、劇団・楽団
- ・飲食店を増やす（例：まちづくり事業で月に何日か営業）

○スポーツ・運動を通じて交流しよう

- ・健康増進、スポーツのまち黒田庄
- ・黒田庄地区運動会の復活（午前中：学校、午後：区対抗）
- ・スポーツを振興（自治会対抗のスポーツ大会を増やす）
- ・ふれあい球場の活用（プロ集団による教室：野球、サッカー、バレーボール）

#### 《子どもが遊び・育つ環境をつくろう》

- ・子どもが安心して遊べる環境（高齢者による広場の専有）
- ・子育て環境の充実（保育園の充実、無償化）

#### 《若者が活躍できるまち、帰れるまちをつくろう》

- ・若い人が参加・活動できるまちをつくろう（若人を認める・知る、まちから離れない）
- ・若者が帰ってこられる環境を整える
- ・若者は帰ってこなくてもよい

#### 《女性が活躍できる環境をつくろう》

- ・女性が参加・交流・活躍できる場をつくろう（女性が企画したイベント、交流活動）
- ・女性の集まり（かつての婦人会、愛育班）の復活
- ・女性のための黒田庄まちづくり計画（女性の目線）
- ・女性の活躍している活動をPRする手法

#### 《高齢者が活躍できる場をつくろう》

- ・独居老人になっても安心して暮らせるまち
- ・知識・技能を活かして高齢者が活躍できる場をつくろう  
（医療費の削減、シニアスポーツ、趣味、手仕事）
- ・高齢者と子どもが交流できる場をつくろう
- ・健康づくり事業（黒田庄地区でメニューを作成）

#### 《地域で支え合うまちをつくろう》

- ・近所で支え、安心して子育てができるまち
- ・隣に声かけて高齢者の手・足になるまち
- ・西脇の福祉中心（白ゆり会、虹の会工房）をもっとアピールする

### ②防災・防犯、交通、買物、医療

#### 《災害・犯罪に強いまちをつくろう》

- ・自分で自分を守る生き方を知る（防犯・防災）

- ・消防団員年齢の人たちの参加、取り組み
- ・地域全体で防犯パトロール

#### 《交通手段を整えよう》

- ・シニアはもっとコミバスを利用しよう

### ③働く、仕事、特産品、観光、I・Uターン、情報発信

#### 《黒田庄の名物・特産品をつくろう》

##### ○特産品をつくろう

- ・農業でくらせるまち（お米はすべて町内で） ・愛郷・愛農の黒田庄
- ・黒田庄地区の特産品開発（農産物の付加価値化、ブランド化、アピール、PR）
- ・地産の直売所（国道沿いに簡易な店舗で営業） ・酒

##### ○名物施設やイベントをつくろう

- ・黒田庄の肉と地元の協力で料理（食堂）をやる
- ・特産品を使ってイベント ・カリンはどうなったの

#### 《働く場をつくろう》

- ・遊休農地等の活用（工業団地、特産作物の集団栽培、ハウスの設置）
- ・大手企業の誘致 ・仕事は町外にもある（小野、三木、加古川など）

#### 《空き家をいろいろ活用しよう》

- ・空き家をうまく管理する方法を研究する
- ・空き家を多面的に活用する（Iターン、賃貸、スポーツ施設）

#### 《歴史・文化を観光に活かそう》

##### ○黒田庄の歴史を学び・知ろう

- ・知っているようで知らない地元の歴史・史跡等を知る、歴史が学べるまち
- ・歴史を活かした観光資源を創りだして活かせるまち

##### ○のんびり観光できるまちをつくろう

- ・外からぶらっと観光してもらえるまちづくり
- ・黒田城址を桜の名所に、古民家カフェ、案内板の充実、黒田庄地区の各神社大祭のPR
- ・外国人に魅力をアピール ・観光に人が来なくてもよい

##### ○まちの案内人（ガイド）を育てよう

- ・まちの案内人（ガイド）を養成する

### ④自然、環境、田畑

#### 《自然と共生するまちをつくろう》

- ・自然と共生するまちー黒田庄 ・緑豊かな黒田庄（自然愛）
- ・地域で田畑を守る仕組みをつくる

#### 《自然を活かして交流の場をつくろう》

- ・加古川の活用（いかだ下り大会、スポーツ施設、カヌー教室）
- ・豊かな自然を多面的に活用（里山の散策コース、ため池を釣り堀に、田んぼアート、キャンプカー、保安林の解除と遊園地化）

### ⑤みんなでまちを育て・発信しよう（自治協議会）

- ・当初は強制的に制度化（地区役員、住民会議役員など）
- ・国道沿いに町内をアピールできる施設をつくる
- ・TVなどを使ってPR ・イルミネーション ・トータス松本
- ・人づくり、地域づくり

■第5回 黒田庄のまちづくりを改めて考えよう（10月28日 黒っこプラザ）

まちづくりの課題、目標像、取り組みイメージ、方法を個人で検討し発表しました。

	課 題	目標像	取り組みイメージ	方法（資源/主体/役割）	
1 班	F	自然環境が活かされていない	①黒田庄を山のゾーン、川のゾーン、住のゾーンに分類する	・クリーン作戦 ・里山整備 ・加古川の環境再生	
			②加古川河川敷への植栽（例：桜ゾーン、紅葉ゾーン、柳ゾーン）	・植栽の実施	
	F	女性の活躍  子どもが遊び育つ	①女性の参画 ・住民会議への参加 ・地域自治会役員への進出 ・女性だけの活動体の組織化 ※婦人会はなぜなくなった？ 女性会はなぜ機能しない？	・仕組みづくりからスタート ・「女性は〇人以上とする」のような規約づくりから	
			②地域が子どもを見守る ・放課後の子どもの遊び場の提供、公会堂開放、子どもの遊び場への老人の参加	・指導者として、週1回でもいい ・公園に必ず誰かがいて遊び相手がいる	
	M	防災・防犯に強いまちづくり	愛郷の精神を培うまち	①各地区の防災、防犯の研修 交通事故の少ない道路の整備、危険箇所の見回り	・点検見廻り（各自が動く、働く意欲づくり）
		スポーツレクリで交流と健康増進		②シニアスポーツを中心に世代間交流、コミュニティの構築、健康増進	・地区土地の整備（交流の広場づくり）
		山と川・池の整備と保存		③加古川等の整備、里山づくり（登山路）、魚釣り・魚とり・水泳、自然と共生	・環境づくり（美しい自然愛）
	F	農業後継者がいない（農業だけでは生活できない）	農産物の自給自足社会、食べ物に困らない、みのり豊かな、皆が休日に農作業できるまち	①高齢者を中心の作物の増産 ・町を出た若者へ支給 ・米食、肉食、野菜食 ・外に買いに行かなくて良い ・近所への配布、分かち合い	・野菜は作れる
		空き家が多い（人口減は仕方ない）		②畑つきのIターンを近所がやさしく迎える、趣味で生きる（楽しむ）人を勧誘	・職人が多い ・リフォームを安く ・ゆっくりハイキング
		若者の地元離れ		③若者が休日等に夢中になれる環境をつくる	
U	国道175号に寄ってもらえない	住みやすい、子育てしやすい、老人も生活しやすい、観光でやってきても体験して泊まってもらえるまち	①古民家の活用	・調査 ・個人の協力	
	多くの歴史文化が知られていない		②住民活動（お世話、仕事）	・組織の運用	
	衣食住の魅力に欠ける		③PR看板の設置など ギネスに挑戦		
—	黒田庄の三大祭り	継続して絶やさない年中行事に	①黒田庄で2000人以上集まる行事は祭りであるため	・町まつり、住民全参加型 ・秋季大祭、南・北部 ・官兵衛まつり、船町蛭子さん等	

2 班	F	安心してく らせる町づ くり	安心してゆっ たりと暮らせ る町にしたい (何か一つ発 信できるよう なものを生み 出す)	①衣食住が完全に揃う ・病気・けが時の対応 ・移動ストアがある ・高齢化に対応	
		何かブラン ド化する		②病気の時に対応が可(医療 の充実)	・山田錦、肉 ・町内外への発信
		まつり充実 文化承継			・夏・秋・官兵衛祭り
	F	高齢者の活 用と医療の 充実	いきいきと楽 しく暮らそう この街で	①高齢者の働く場の提供	・特産品の開発、地元 野菜づくり ・農家 ・直売所店番
		ブランド (米、肉) の充実販売		②農家レストランの運営(黒 田庄直営、家族で利用、ワ イナリー)、販売店の運営	・山田錦 ・やる気ある若い人 ・レジ係、裏方
		観光資源の 活用		③来る人個人が見つけて発見 する場(もてなしはなし)	・城跡 ・来訪者 ・道案内、簡単な説明
	K	コミセン活 用した交流	自然と共生	①14 集落の取り組みを集約 した活動をコミセンで	
		自然を守る 取り組み		②地域で田畑を守る仕組みを つくる	
		防災、避難 場所の検討		③地域で支えあい、高齢者含 めた安心、安全な取り組み	
3 班	O	田畑の放棄 地が増えて くる	企業誘致を進 めて若者の転 出を防ぐ 放棄地を利用	①良い肥料が多くあるので有 効利用、化学肥料・農薬は 減らす	・老人による農業クラ ブ ・トラクターによるす き込み
	一	高齢者の活 力低下(老 人会に参加 しない人が 増加)	みんなでいき いき、のんび り暮らしを楽 しめる	①元気な 80 歳までの高齢者 が隠居しない地域づくり	・レクリエーション・ 娯楽に終始しない、 地域を支える老人ク ラブ活動(行事消化 →地域創造)
		自然が十分 活用されて いない		②黒田庄おもてなしガイドク ラブの育成	・50~70 歳が参加(わ が村知る機会提供) ・村の自慢スポットの 設置と運営
		子どもと高 齢者の交流		③じい・ばあ・孫交流の推進 (親子より一段幅広い人間 関係の拡大)	・子ども会と老人会の タイアップによる地 域交流大会 ・農村文化活動(田植 え、野菜収穫一育て る喜びを伝える)
	K	自然が豊か	人が集まる、 呼べる	①自然を活かしたアスレチック などイベント、加古川の 活用(筏下りなど)	
高齢者、交 流 活気のある 黒田庄					
I	人口の減少 (少子化、	子育てしやす く、高齢者が	①保育園の待機児童ゼロ、 若者の交流の場づくり	・保育園運営に力を入 れる	

		若者の流出	生き生きして、楽しく暮らしやすい	(スポーツ・料理教室、加古川釣り遊び)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特技を持っている人の活用(スポーツ、料理、農業、趣味)</li> </ul>
		高齢化(老人会の不活性化)		②高齢者の遊びの場づくり 高齢者が活動できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味教室をつくる(麻雀、囲碁、将棋、音楽、農業、工作)</li> </ul>
		活気がない		③イベント(スポーツ、祭り、音楽、食、特産品)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市役所の役割(夏祭りのような予算化)</li> <li>特産品の販売(あつまっ亭の拡大)</li> </ul>
その他	○	交通手段が少ない(買物、受診、趣味外出)	住み慣れた自宅や地域で最後まで暮らし続けることができるまち	①買物や受診など外出に困ることなく生活できるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出支援ボランティア</li> <li>地域巡回バス</li> </ul>
		コミュニケーションの場が少ない		②世代間交流がはかられ、孤独感や閉塞感を感じずに生活することができる、地域に出かけていく場所や交流、役割がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩いて行ける場所にサロンがある</li> <li>傾聴ボランティア</li> <li>趣味の集まり(将棋、囲碁、農業クラブ、山登り、物づくり、料理教室)、特技のある人の発掘・活用</li> </ul>
		健康維持や介護予防の意識が低い(自助)		③食事や運動の重要性を伝えていく(自分の健康は自分で守るというセルフヘルスケア意識の高いまち)	<ul style="list-style-type: none"> <li>織姫体操サロン普及</li> <li>健康講座(健康ふれあい教室、いきいきサロン、出前講座)</li> <li>スポーツ交流の機会</li> </ul>
M		農業(米作り)を活かす	老若が共存して、活気・国際色豊かな	①酒米によるワイナリー作り ・県～全国に普及できるように ・出張して学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒米を利用</li> </ul>
		高齢者の活躍の場を		②高齢者がキャリアや趣味を活かせる施設・場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を利用</li> </ul>
		外国人が住める			

## ■第6回 みんなで取り組む計画をつくろう（11月29日 黒っこプラザ）

まちづくりアンケート結果の報告のあと、まちづくり計画骨子案が了承され、次のような意見が出されました。

### 《外よりも内、黒田庄地区全体よりも各町を重視》

- ・外から訪れる人よりも、内の人を楽しめるまちで
- ・黒田庄のコミュニティよりも集落でのカフェ、小さな一歩、具体的に小さなことから
- ・中心施設をつくるより、各地区にできるのが良いが、各地区でできるか

### 《世代間の交流、交流の場づくり、女性の参加》

- ・子どもの広場づくり
- ・子育て、公園が多いまち、少し歩いて行ける
- ・世代を越えた交流（大人が子どもを教える、子どもが大人に教える）
- ・子どもと年寄りの交流できることを考えては（子どもを育てる）
- ・黒っこプラザの活用を考える（余剰施設の活用）
- ・住民会議に女性が参加
- ・女性のグループ活動からスタート
- ・住民講師の発掘

### 《黒田庄地区での取り組み、魅力づくり、発信》

- ・行ってみたいがあまりない（車、音楽、釣り）
- ・合併前にあったことができるように（文化祭、運動会・・・）
- ・学校&地区の合同運動会（午前：学校、午後：地区）
- ・官兵衛まつりを黒田庄地区のまつりにする
- ・黒田庄のPR不足、外から集まれる魅力発信すれば（ソフト面、ハード面）
- ・黒田庄をアピールするために国道を活用した事業ができないか？（通過のまちを活用）
- ・黒田庄地区のPRをドローンを使って行う

### 《日時計の丘公園を楽しめる場所に》

- ・門柳・岡一帯を文化ゾーンにする（オートキャンプ場の機能アップ）
- ・日時計の丘公園、施設は良いが付随するものが少ない（例：ボルダリング、カヌー）
- ・日時計の丘公園を拠点に、遊ぶゾーンがあれば良い、整備

### 《その他》

- ・不満なアンケートをもっと取り入れては

## ■第7回 まちづくり計画とスケジュールを考えよう（12月21日 黒っこプラザ）

これまでの意見交換を踏まえたまちづくり計画案の内容と取り組みスケジュールについて意見交換し、次のような意見が出されました。

### 1 まちづくり計画とスケジュールを考えよう

#### 《まちづくり計画》

- ・第6回の意見を踏まえて加筆修正した「まちづくり計画素案」は、おおかた了解された。
- ・次のような情報の提供があった。
  - －高齢者の健康づくりとして、「命の貯蓄体操」「介護予防運動教室」が実施されている。
  - －観光ガイドは、現段階でも、問い合わせ・依頼などに応じて、歴史研究会のメンバーなどが対応している。
  - －JR 加古川線の利用促進は、町民ふれあい号の運行だけでなく、ディーゼル車を利用した周遊旅行なども含む。

#### 《スケジュール》

- ・各計画を短期（1～3年）、中期（4～6年）、長期（7～10年）のいつ実施するかを検討した。多くの計画内容は、すでに実施しているか、できるだけ早い時期に着手することが望ましく、かつ長期的に展開していく必要があること（短期、中期、長期のほぼすべてに該当すること）が判明した。
- ・計画の内容が網羅的であったり、具体化されていないことによるかもしれない。
- ・このため、時間軸で分類するよりは、重点的に取り組むものを明確にして進める計画とした方が良いかもしれない。

### 2 自治協議会の組織を考えよう

- ・「交流・学習部会」「福祉・環境部会」「産業・観光部会」「情報・企画部会」の4部会の組織体制案は、おおむね了解された。これを基本としながら、計画の内容や人材・団体の実情に即した柔軟な組織体制を検討していくこととする。
- ・組織案では、理事会は区長（14名）、部会長・副部会長（4部会の場合は8名）によって構成され、区長が半数以上を占める。これは、若者や女性の積極的な参加をめざすことに逆行している、区長の数はもっと少なくても良いなどの意見が強く出された。

## ■第8回 女性・若い人が参加できる方法を考えよう（1月30日 黒っこプラザ）

女性・若い人などが参加できる地域自治協議会の構成、くろっこ会議の意見を踏まえてまとめた「まちづくり計画案」について意見交換しました。

### 《女性・若い人が参加できる方法を考えよう》

黒田庄地区地域自治協議会の組織案に関して次のようなことを話し合い、確認しました。

- 15名の区長の10名が4月に交代するが、情報の分断がないように退任後も地域自治協議会の活動に残ってもらいたい。退任した区長が地区のまちづくり組織に1年以上残って活動を続けている西脇市の他地区の例が参考になる。
- 構成団体から選ばれる運営委員に「多い～少ない」のばらつきがあることは問題。選ばれた人が活動できないような多めの選考や形式的な選考もよくない。およその定員（150名など）を決めて、各団体からや公募委員を選ぶことも考えられる。
- あて職でなく積極的な意思のある人に参加してもらいたい。まず各団体の代表者に出席してもらい、持ち帰って適任者を推薦してもらうことも考えられる。
- 企業等は、公共性が高く参加してもらえそうなNPO法人、学校園、金融機関などを選んでいるが、参加の希望や推薦のある団体にも積極的に参加してもらう。ボランティアグループなどにも参加を依頼したい。
- 設立総会（平成29年5月を予定）をめざして規約等の作成を進めたい。

### 《黒田庄地区まちづくり計画案について》

黒田庄地区まちづくり計画案「千年の伝統を未来につなぐ NEW 黒田庄づくり」の紹介のあと次のような意見が出された。

- 「景観10年、風景100年、風土1000年」と言うから、「千年の伝統を未来につなげる」を「千年の風土を未来につなげる」にしてはどうか。
- 幼稚園、保育園の中には、平成28年度末に廃園され、認定こども園になるところもあることの記述が必要では。
- 表紙の写真は、黒田庄の特徴を表し、未来を感じさせるものを組み合わせる。例：自然、歴史・文化、産業、子どもなど

## ■第9回 計画を共有し発進しよう（2月27日 黒っこプラザ）

くろっこ会議の参加メンバーのほかに、黒田庄地区まちづくり住民会議の委員にも参加いただいて開催。黒田庄地区まちづくり計画「千年の風土を未来につなぐ NEW 黒田庄づくり」の概要版の発表とあわせて、ミニ講演「黒田庄の千年の風土を未来につなごう」（山本茂）を実施。事例研究として先進地の動画を鑑賞したのちに、新年度に発足する「黒田庄地区地域自治協議会」のもと、黒田庄のいろいろな人・団体がつながりながら力を合わせて、より住みやすく、魅力ある黒田庄をつくっていくことを確認して「くろっこ会議」を終えました。

### 3 黒田庄地区まちづくりアンケート調査結果

※全隣保に各1人を原則として、主に女性（年齢不問）又は20歳代～40歳代の男性を対象に、  
区長会に配布と回収を依頼。調査期間：平成28年10月4日～10月末

添付資料：前計画概要版（平成19年度策定）

※調査対象サンプル数150、回収数149、有効回収率99.3%

問1 あなたの性別は

	回答者数（人）	割合（%）
1. 男	40	26.8
2. 女	109	73.2

問2 あなたの年代は

	回答者数（人）	割合（%）
1. 20歳代	9	6.0
2. 30歳代	19	12.8
3. 40歳代	54	36.2
4. 50歳代	38	25.5
5. 60歳代	27	18.1
6. 70歳代以上	2	1.4

問3 あなたの住んでいる小学校区は

	回答者数（人）	割合（%）
1. 楠丘小	83	55.7
2. 桜丘小	66	44.3

問4 あなたがお住まいの地域の良いところや問題点についてどのように感じていますか？

現状の満足度  
1.満足 2.やや満足 3.普通 4.やや不満 5.不満

項目の重要度  
1.重要 2.やや重要 3.どちらともいえない 4.あまり重要でない 5.重要でない

※      の項目は、39問のうち、満足度、重要度の各上位10

項目	満足度 回答者数(人)割合(%)				重要度 回答者数(人)割合(%)								
	満足	普通	不満	重要	どちらでもない	重要でない							
自然環境	田園・里山等の自然が豊か	89	64.0	39	28.1	11	7.9	103	71.5	32	22.2	9	6.3
	加古川水系の豊かな水資源	68	48.6	58	41.4	14	10.0	99	68.8	36	25.0	9	6.2
	散歩道・トレッキングコースが多い	36	25.7	62	44.3	42	30.0	77	53.8	51	35.7	15	10.5
人・コミュニティ	近所付き合いができてきている	59	42.1	67	47.9	14	10.0	99	68.3	37	25.5	9	6.2
	行事にみんなが参加する	42	30.2	73	52.5	24	17.3	87	61.7	46	32.6	8	5.7
	地区内の交流や市民活動が盛ん	31	22.6	76	55.5	30	21.9	72	50.3	64	44.8	7	4.9
教育	学校・家庭・地域連携ができてきている	44	32.1	65	47.5	28	20.4	100	70.4	34	24.0	8	5.6
	生涯学習の機会がある	27	19.4	85	61.2	27	19.4	77	55.0	54	38.6	9	6.4

子育て支援	子育て支援の施設や施策がある	34	25.0	64	47.1	38	27.9	108	78.3	27	19.5	3	2.2
	子ども見守り隊がある	55	40.1	49	35.8	33	24.1	112	78.9	27	19.0	3	2.1
	安全な子どもの遊び場がある	19	14.0	43	31.6	74	54.4	116	81.7	21	14.8	5	3.5
買物飲食	近所での買物に困らない	20	14.5	38	27.5	80	58.0	109	78.4	23	16.6	7	5.0
	近くに飲食店がある	14	10.0	27	19.3	99	70.7	90	62.5	42	29.2	12	8.3
医療福祉	病院・医院が充実している	56	40.3	50	36.0	33	23.7	120	83.9	17	11.9	6	4.2
	老人福祉施設やサービス施策がある	42	30.4	63	45.7	33	23.9	113	80.1	21	14.9	7	5.0
交通	国道175が通っている	70	50.0	60	42.9	10	7.1	95	68.8	39	28.3	4	2.9
	JR加古川線が通っている	57	41.3	49	35.5	32	23.2	100	69.4	38	26.4	6	4.2
	つくしバスが運行している	37	26.6	58	41.7	44	31.7	92	63.4	42	29.0	11	7.6
農業振興	農業後継者の育成	11	8.5	65	50.4	53	41.1	96	72.2	32	24.1	5	3.7
	鳥獣被害の軽減対策	14	11.0	61	48.0	52	41.0	90	68.7	36	27.5	5	3.8
	特産品づくり	26	20.6	72	57.2	28	22.2	79	58.9	49	36.6	6	4.5
仕事	近隣の職場数	7	5.4	33	25.4	90	69.2	107	78.7	24	17.6	5	3.7
	企業や商店の誘致	15	10.9	33	24.1	89	65.0	101	74.3	30	22.0	5	3.7
歴史文化	神社・仏閣等の歴史・文化資源	53	41.7	67	52.8	7	5.5	70	51.9	60	44.4	5	3.7
	祭りが盛ん	58	45.7	59	46.4	10	7.9	68	50.4	58	42.9	9	6.7
防災防犯	加古川流域の災害対策	23	18.1	65	51.2	39	30.7	111	81.6	22	16.2	3	2.2
	消防署・消防団の現状	28	21.9	72	56.2	28	21.9	87	63.5	46	33.6	4	2.9
	自治会の自主防災組織づくり	25	19.5	76	59.4	27	21.1	85	62.1	51	37.2	1	0.7
	避難場所の確保	31	24.0	61	47.3	37	28.7	108	78.2	27	19.6	3	2.2
スポーツ	スポーツに親しむ機会がある	12	9.4	82	64.1	34	26.5	50	37.1	72	53.3	13	9.6
	集落対抗のスポーツ大会がある	14	11.0	89	70.1	24	18.9	36	26.9	72	53.7	26	19.4
	スポーツ施設の充実	3	2.3	76	58.9	50	38.8	51	37.5	70	51.5	15	11.0
基盤整備	国道バイパス早期着工	16	12.5	58	45.3	54	42.2	80	59.3	44	32.6	11	8.1
	県道・基幹道路整備及び安全対策	15	11.8	53	41.7	59	46.5	103	76.9	25	18.6	6	4.5
	集落内道路安全対策	16	12.8	64	51.2	45	36.0	102	73.4	31	22.3	6	4.3
まちづくり	地区全体での各種イベント開催	15	11.7	92	71.9	21	16.4	40	29.6	82	60.8	13	9.6
	JR駅舎等の活性化	12	9.4	90	70.3	26	20.3	47	34.8	82	60.7	6	4.5
	観光資源のPR	3	2.3	93	72.1	33	25.6	62	45.6	68	50.0	6	4.4
	黒っこプラザ利活用	8	6.3	91	71.1	29	22.6	52	38.2	72	53.0	12	8.8

問5 前まちづくり計画の取り組み計画について、あなたはどのように評価しますか？

前計画の達成度：できた○ どちらともいえない△ できなかった×

前計画の必要度：必要 ○ どちらともいえない△ 必要でない ×

集計方法：○に5点、△に2.5点、×に0点を与え、集計後に平均値を算出し、次のとおり分類する。

0点～3点未満：あまり できていない・必要でない

3点以上～4点未満：やや できている・必要 4点以上～5点：かなり できている・必要

※   数字の計画は「かなり必要」（4点以上）

前計画の中にある取り組み計画	達成度の平均点	必要度の平均点
1 安心できる子育て環境を育成していくために		
①子育て支援拡充のため、高齢者やボランティアの知恵・能力を活かす工夫をする	2.4	4.2
②集落ごとに、見守り隊や遊び等の交流の場を確保する	2.4	4.1
③集落や地区の交流・研修する機会を積極的につくっていく	2.3	3.3
2 高齢者の暮らしと生きがいを、共につくるために		
①高齢者等の通院・買物等のお出かけ支援体制（有償・無償ボランティア）をつくる	2.1	4.0
②集落ごとの趣味・娯楽等の活動を広げると共に、他地区との交流を展開する	2.1	3.3
③日常の隣近所との付き合いや外出を促すために、一声運動などを行う	2.5	3.6
3 集落ごとの安全と安心を確保していくために		
①歩行者や自転車の安全を確保するため、集落ごとに危険個所の点検を行う	2.5	4.5
②震災や火災などに対応する自主防災体制づくりを集落単位で検討する	2.8	4.5
③廃棄物不法投棄等の見回り隊を編成し、定期的に点検・監視活動を行う	2.0	3.9
4 集落ごとの特色ある農産物づくりのために		
①集落ごとの生産種別の取り組みを強め、地域に根差した生産物づくりを目指す	2.2	3.5
②廃棄物の資源的利用とリサイクル運動を展開する	2.8	3.8
5 スポーツ・文化活動を一層普及していくために		
①スポーツ・文化活動の裾野を広げ、グループの連携や組織化を図っていく	2.2	3.0
②ふれあいスタジアムは、地元の人たちが利用しやすい方法を検討する	2.0	3.5
③文化活動グループの連携と継承の方法を検討する	2.2	3.2
6 地区の自然環境や歴史遺産を保全、育成していくために		
①里山景観や丘陵部の保全のために、トレッキングコースを拡充する	2.2	3.5
②身近な散策路の整備を検討する	2.1	3.8
③神社仏閣の保存・修復は、檀家や氏子と集落との協力・協同の方法を模索する	3.0	3.5
④ホテル生息地付近の水生環境を保全し、その環境維持の方策を研究する	2.6	4.0
7 門柳川流域の多様な自然環境を活かすために		
①宮池の水質改善を進めるために岡を中心とする支援・協力体制をつくる	2.3	3.4
②秋谷池付近は、里山としての修景保全に努める	2.4	3.4
③ふれあいスタジアム付近でのホテル復活のための条件や環境を検討する	2.3	3.5
④認定コースを有するグラウンドゴルフ場づくりを地元主体・協同体制で進める	2.4	3.1
8 まちづくりの支援を広げていくために		
①福祉・環境コーディネーターやボランティア養成研修会等を企画する	2.2	3.5
②住民の能力・知恵・資金等をまちづくりに活かす仕組みづくりを検討する	2.0	3.9
9 行政への要請課題		
①国道175号バイパスや、県道、市道の整備促進	2.0	4.3
②旧西脇と旧黒田庄や、市内各施設への移動のための地域公共交通の整備	2.0	4.3
③歩道整備や白線引き等、通行区分などの安全対策の充実	2.3	4.4
④加古川の治水対策の早期完了を踏まえて、支流の内水対策の推進	2.3	4.0
⑤「魚が食べられる清流・加古川」を目指した水質改善	2.0	4.0
⑥資源リサイクルの促進策と廃棄物減量対策の具体化	2.4	4.0

問6 これからのまちづくりに住民参加が不可欠と思いますが、どのようにお考えですか。

	回答者数 (人)	割合 (%)
1. 何事にも積極的に参加したい	2	1.4
2. 内容や頻度等によっては積極的に参加したい	46	31.9
3. 頼まれれば、可能な範囲で参加・協力したい	74	51.4
4. 関心がない	8	5.6
5. わからない	12	8.3
6. その他	2	1.4
その他の具体的な意見		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が住めるようなまちづくりをしてほしい。(50代女)</li> <li>・同世代で同じ目的を持って協力できる事があれば、楽しく参加できると思います。(40代女)</li> </ul>		

問7・8 黒田庄のまちづくりの「目標像」と「取り組み内容」、自由な意見をお書き下さい。

①高齢者福祉

- ・高齢者になっても生きがいを持って暮らしたい。交流の場所づくりをお願いしたい。(50代女)
- ・高齢者が無料で集まって、遊べたり食べたり話したりできる場所が必要(50代女)
- ・高齢者と子どもが安心して住める町に。(50代女)
- ・老人・子どものふれあいを大切に、みんながあいさつできる地区づくりをしてほしい。(60代男)
- ・自分の住んでいる部落では、この先高齢化が進むことが考えられます。独り身の高齢者に安心した生活ができると良いと思います。(40代男)
- ・次のようなまちづくりをしたい。(50代女)

目標像	取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命の長いまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診や介護予防の充実</li> <li>・「運動」「食事」「交流」の重要性の啓発</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝たきりや認知症など介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるまち</li> <li>・自宅など本人が望む場所で最後を迎えられるまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療介護サービスの充実</li> <li>・地域での見守りや支援体制の充実</li> <li>・住民啓発</li> </ul>

- ・私の村も高齢化が進んでいます。少子化も。やはり若者が住みやすい町づくり、子どもたちがいじめのない町づくり、お互い声かけあうのが大切だと思います。お年寄りも年だから何も村の行事には参加しないというのではなくて、会えば笑顔で、奉仕作業が出来なくても、出会えば笑顔で、そんな町であってほしいと思います。(60代女)
- ・元気な高齢者がグラウンドゴルフや色々なスポーツで健康を維持されていることは素晴らしいと思います。そのうち1回を何かのボランティア(有償でもよい)に参加して、地域貢献などに行くという、誰かの為に、地域の為に、という発想はいかがでしょうか?元気でまだまだ働ける高齢者にもっと活躍の場を提供してみても。(60代女)

②子育て支援

- ・子どものための公園を増やしてほしい。(40代男)
- ・子育てしやすい黒田庄にしたい。(30代女)
- ・子どもたちが安心して暮らせるよう、公園遊具の安全点検、登下校に使う通学路の街灯設置箇所を増やす(特に中高生は帰宅が遅くなるので)。徒歩圏内に児童が集える場をつくる(閉園になった幼稚園等を利用しては?)。放課後、茜が丘の子は「みらいえ」に集まって遊んでいる。(30代女)
- ・お年寄りが子どもたちを宝のように大切にしてくれる町になってほしい。(40代女)
- ・子育てしやすい町づくりにしてほしい。完全に過疎化になっているのでくいとめたい。(40代女)
- ・スポーツを通じた健全な子どもの育成、何歳になっても住みたい黒田庄になってほしい。(30代男)
- ・グラウンドゴルフに気を使わず、整備・予約(使用)なく、気兼ねなく、いつでも遊べる・集まれる公園等がないものではないでしょうか。(30代女)
- ・もっと住みやすい、働きやすい、子育てしやすいようにしてほしい。共働きじゃないと生活は苦し

- いの、市営に住もうと思ったら家賃が高かったし、もっと若い人にも優しい地区にしてほしい。子どももほしいと思っているが、もっと子育てに関する補助を増やしてほしい。もしあるならもっとわかりやすく宣伝してほしい。年寄りばかりじゃなく、若者も大切にしてほしいです。(20代女)
- 子育て世代が利用しやすい施設、地区の子どもたちが安全に過ごせる場を充実していくことにより、より住みやすい地区になると思う。また、高齢者も集える公民館や施設などをつくると、子どもと一緒に過ごす中で、地区の交流が深まるのではないかな？(30代女)
  - 老人がグラウンドゴルフをするのはとても良いことだけど、土・日は子どもたちのためにグラウンドを空けてほしい。平日に楽しんでください。(40代女)
  - いじめが多発する傾向があるのはコミュニケーション不足であると思うので、話をする場を設けるといい。(50代女)
  - 「みらいえ」までも遠く、遊ぶところも少なく、グラウンドはグラウンドゴルフの方と子どもたちでボールのトラブルなど。子どもを育てていく上で黒田庄は少し不便だなと思います。良いところもありますが、それをあまり話できるときもなく。保育料も第3子でも上の子との年で細かく値段に差があり、他の地域を聞くとうらやましく感じます。もう少し子どもの事にも力を入れていただけたらありがたいと思います。(30代女)
  - 小学校の下校時、毎日だけでなくもよいので、見守り隊がいてほしいです。(40代女)

### ③若者・女性の活躍

- 活気ある町にしてほしい。若者が定住したいと思える町になるように。(50代女)
- 若者や女性を活かす活動(40代男)
- これからを背負っていく若い人達にこれからの黒田庄をつくってほしいです！(60代女)
- 若者が職に就きやすく、子育てしやすい黒田庄にしてほしい。(50代女)
- 「こんな黒田庄をつくりたい」と若者が思うような町にしてほしい。そういう気持ちの人が少ないと思う。SNSやホームページ等で若者にもまず関心を持ってもらった方がよいのでは。(30代女)
- 若い人が少なくなっていく今、この先黒田庄が案じられる。心配です。(40代男)
- 自主的な事業、取り組みが少ない。若者や女性の意見を活かした取り組みを進める。→リーダーの発掘(40代男)
- 高校を卒業後、若い人が町へ出て行ったまま帰ってこられない町では、安心して暮らせないので、高齢者もできるボランティア等をしていただき、若い人が黒田庄に住もうと思えるよう、行事等の負担も減らしながらも、安心して暮らせる工夫と、車がなければどこへも行けない交通への対策(つくしバスは料金が高い)等をしてほしいと思います。また、若い人が生活できるよう、仕事も遠距離通勤にならないよう、企業の活性化対策も必要だと思います。(40代女)
- 若い夫婦が住めるようなアパートやハイツがほとんどなく、仕方なく町外へ出ていく人がいるので、若い人が住みたくなるような住居があれば良いなと思います。(30代女)
- 町(村)の婦人会がなくなってから、仕事オンリーになり、婦人の方と触れ合う機会が少なくなり淋しいです。友達はいますが、これでいいのかな？って思います。62歳、年金も支給が65歳になり、まだまだ働かないと大変です。正直、まちづくりを考える余裕がありません。ゆとりのある生活がしたいです。心も体も！！そして地域の活動にどんどん参加し、協力したいです。(60代女)
- 黒田庄のまちづくり会議に出席する女性を増やすべき。各集落でも女性の団体があたりなかつたり、事情があって解散したのかもしれないが、必要ではないですか？人材はいると思います。リーダー養成とか若い人にも参加してもらうよう、仕組みときっかけがあればと思います。(40代女)
- 若い人も住み続けられるように、行事等も負担を減らしながら、黒田庄の特産品をアピールできるような住みよい町にしてほしい。(40代女)

### ④仕事・企業・商店の誘致

- 働く場所がもっとあればいいと思う。若者の定着、少子化対策にもつながるのでは？(40代男)
- スーパーや商業施設をつくり、地域おこしをする。(30代男)
- ショッピングモールがあつたらいいな。(20代女)
- 若者が定住するための産業・企業の育成(60代男)

- ・職場誘致をしてほしい。(50代男)
- ・買物ができるスーパーがほしい。(40代女)
- ・スーパーがほしい。飲食店(系列店)があったらいいと思う。(20代女)
- ・いつもまちづくりにご尽力下さり感謝しています。子どもの数が年々減少しているの、住宅地の確保や企業の誘致なども行い、他県からの移住者を増やせば、まちの活性化になるのではないかと思います。黒田庄で営業されているお店を守るのも大切だと思います。(40代女)
- ・地元で働き、地元で生活し、家族が地元になれるまちづくり(50代女)
- ・楠ヶ丘小学校校区に食料(雑貨)品の店の誘致をお願いしたいです。高齢者等で車に乗れない人にも行きやすいスーパー等がありがたいです。(50代女)

#### ⑤防災・防犯、安全・安心

- ・住みよく安全な黒田庄(60代女)
- ・災害対策をしっかりしてほしい。(50代女)
- ・防災の行き届いた町づくりをお願いしたいと思います。災害が起きたときの具体的な身の振り方など、集落単位で話し合う機会がもっと必要だと思います。(50代女)
- ・安全面において街灯を充実させていただきたい。駐車場を設置・改修される場合、台数を重視するのではなく、ゆとりあるスペースを確保していただきたい。「黒田庄でよかった!」と誇りに思えるまちづくりにご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。(40代女)
- ・水害を想定して、各消防庫に救助ボートを置くべきだと思う。(40代女)
- ・子どもが通る道、通学路が暗いため、防犯のために街灯をもっと付けるべきである。(50代女)

#### ⑥農業・特産開発

- ・黒田庄には他県にも自慢できる特産物がたくさんあるので、もっとPR活動が出来れば良いと思います。(40代女)
- ・黒田庄のあちこちで鹿対策用のネットが張ってあるが、もっと駆除して、きれいな田んぼ風景であるほうが、町内、地区内もきれいに見えると思う。(50代男)
- ・どこの地域でも人口減少に苦しんでいます。新しい人がここに住みたいと思うような受け入れ体制づくりと環境の整備をしていく。農業の保護を進め、後継者を育成及び新しい人の受け入れを同時に行う。(50代女)
- ・もっと黒田庄の特産物などを生かして商品化し、ふるさと納税とかを増やし、地方創生していかないと、すたれた地区に必ずなると思います。(40代女)
- ・黒田庄の特産品を推進める。町民が集う催しを増やす予算にも限りがあると思いますが。(60代男)

#### ⑦基盤整備

- ・1日も早くR175号をつくってほしい。一体いつになれば完成するか、どの辺りを通るかぐらい説明しろ!何年かかってやっているんや!他はとっくに出来ているんやから早くしろ!(50代女)
- ・家のすぐ前の道路は県道です。30年ほど前は車の通行が少なく、安全だったらいいけど、今は、狭いわりに大型トラックなどの通行量が多いため、家の前の道路を歩くのが危険。登校時は毎日不安。中学・小学校ともに通学路を安全に整備してほしい。大坪の踏切から船町のうっそうとした木を切ってほしい。国道175号の大伏あたりから大門のローソンあたりの川側の竹林を切ると、素晴らしい景色が楽しめると思う。(40代女)
- ・川のそば(河原)をうまく利用できたらいいなと思う。加古川市とは地形などが違うから同じようにいかないかもしれないが、河原で散歩やジョギング、テニスやバドミントン、自転車など、自由に広々と楽しんでいるのを見かけると、同じ川のそばの町としてうらやましいなと思う。(40代女)
- ・国道175号を幹線とした基幹道路網の整備(60代男)

#### ⑧交通

- ・「みらいえ」はやはり遠い。移動図書館の運行があれば利用しやすいと思います。コミュニティバスを小型にして、便数を増やすと利用しやすいです。(50代女)
- ・この町での移動手段に自動車は必要です。しかし、高齢者になるといつまで運転してよいのか心配です。運転できなくても日常の生活が困らないようなまちづくりをお願いしたいです。(50代女)

- 年をとってからも車がなくても出かけられるような交通機関と料金を充実させてほしい。(40代女)
- つくしバスが村の中を通らないので大変不便で、運賃も高いと思う。(40代女)

#### ⑨まちづくり全般

- 町をあげて行うイベントが1つでもあればいいと思います。市内だけでなく市外からも人が来るような活気のあるものを望みます。(40代女)
- 人づくりが一番(30代男)
- 公開の場での討論 → 情報がない。(40代女)
- 活気のある町、安全安心に暮らせる町(50代女)
- どんな町にするのか基本理念(40代女)
- 押し付けにならない住民参加(60代女)
- 他にない黒田庄になれば、西脇市黒田庄町ではない、黒田庄独自の町づくり、みんなに黒田庄を知ってもらいたいですね。(40代女)
- 住民参加が不可欠だと思いますが、ただ、決め事が多すぎる気がします。それに参加しようと思っても、そのことからの一部分は協力できにくいのに協力しないといけない。それならば最初から参加しないでおこうとなります。(特に老人会、葬式等)(60代女)
- 私が知らないだけかもしれませんが、計画がどう実行されているのか疑問です。高齢化も進み大変だと思いますが、頑張ってください。計画が少し理想的すぎるのではないのでしょうか。(40代女)
- 黒田庄のまちづくりを計画している割には規模が小さく、認知度が低いと思います。計画も分散しているので、何をメインに盛り上げていく予定なのか、よく分かりません。ホテルもトレッキングコースも中途半端で、町内でもどれだけの人が利用して楽しんでいるのかなと思います。(40代女)
- できるだけ多くの人の意見が反映できる様に、多世代の参加を呼びかけられ、参加者が自由に発言できる会議になればと思います。(50代女)
- 黒田庄町の良さを、西脇市にうもれるのではなく発揮していく！黒田庄が西脇と合併して、本来の黒田庄ではないように思います。伝統を守るのと同時に、新たな町づくりに着手する。住みよい町は人間関係があつたかい町！(30代男)
- 主要となる建物は西脇市の方へどうしても建てられてしまう(「みらいえ」や市役所)ので、黒田庄地区に人が集まる必要性や魅力を作り出さないと、余計に人が減っていくのではないかと思います。PRの仕方も工夫が求められるとも感じます。(20代女)
- 発展させるのではなく、住みよい田舎の町：皆が来てくれる自然あふれる町になってほしいです。子育て、教育に力を入れて、特産品や自然保全をアピールしていく。(40代女)
- 自然豊かな黒田庄は良い町だと思いますが、何かにつけて不便すぎます。もう少し活性化できれば、なかなか難しいですが。(40代女)
- 子どもを1人でも多く生んでいただく為に、黒田庄にしかない案があればと思います。(50代女)
- 高齢者のグループホームなどあるが、障がい者のグループホームもあればと思う。障がい者にもっともっとやさしい黒田庄になってほしい。仕事先ももっと増えればと思う。(50代女)
- 昔からある物、宮・寺、いろんな場所を書いた物を作ってもらいたい。黒田庄が生まれた歴史を長く伝える、そうした物の書物を作って配布してほしい。(60代男)
- 多可郡の頃の方が住みやすかったように思う。昔は中央公民館(黒っこプラザ)をよく利用していたと思うが、今はさっぱり。(40代女)
- 昔ながらの伝統を守っていくのは大変なことですが、少子化も進んでいるため、その時代にあった方法も考えていく必要があるのではと勝手に思います。(50代女)

#### ⑩その他

- 黒田庄で生きてきて初めて聞いた取り組みばかり。成果を上げられていないのでは。(20代男)
- 何事も積極的に参加していないのでアンケートも正直よくわかりません。役員様にはご苦労様です。そして感謝です。(60代女)
- 現状のままでよい。(60代男)
- 黒田庄の良さが自分自身分かっていない。自分の子ども世代に地元に残ってほしいとは思わない。(40代女性)

#### 4 黒田庄地区まちづくり計画見直し・地域自治協議会検討委員会（くろっこ会議）委員名簿

氏 名	分科会・役割等	所属団体・役職等
長谷川 俊 雄	代表	住民会議会長（住民代表）
藤 原 悟	第1分科会分科会長	小苗区長
松 田 輝 信	第1分科会副分科会長	民生児童委員協議会委員
村 上 均	第1分科会委員	区長会会長（住民会議副会長）
藤 井 清 孝	同上	喜多区長
藤 本 恭 造	同上	津万井区長
藤 原 邦 昭	同上	石原区長
宮 崎 隆 志	同上	大伏地域活動推進委員
森 脇 昇	同上	老人クラブ副会長
角 田 恵	同上	楠丘小学校PTA会長
松 本 純 子	同上	保健衛生推進委員会理事
藤 原 栄 一	同上（～第5回）	交通委員会会長
東 野 由美子	同上（第6回～）	同上副会長
上 月 邦 貢	同上	スポーツ振興会副部長
桑 野 修 一	同上	黒中校区健全育成会議桜丘小代表
藤 原 光 生	第2分科会分科会長	黒田区長
飛 田 竹 己	第2分科会副分科会長	西沢地域活動・観光事業推進委員
櫛 原 修	第2分科会委員	大門区長（区長会・住民会議副会長）
村 上 紀 文	同上	福地区長
飛 田 義 正	同上	西沢区長
荻 野 愛 夫	同上	田高区長
藤 原 笙 道	同上	黒田観光事業推進委員
藤 本 美 鈴	同上	青少年補導委員会班長
小 林 鉄 一	同上	桜丘小学校PTA会長
安 藤 智 基	同上	消防団第7分団分団長
藤 原 秀 一	同上	区農会長協議会会長
岡 原 幸 雄	同上	スポーツクラブ21くすがおか副代表
上 月 重 宏	同上	市職員まちづくり対策委員会委員長
藤 原 良 昭	第3分科会分科会長	門柳区長
石 井 理	第3分科会副分科会長	津万井観光事業推進委員
村 岡 信 弘	第3分科会委員	船町区長（区長会・住民会議副会長）
岡 原 文 男	同上	岡区長
横 山 秋 雄	同上	大伏区長
谷 口 榮 一	同上	前坂区長
石 井 二 朗	同上	老人クラブ副会長
藤 本 信 宏	同上	子ども会指導者連絡協議会会長
角 田 吉 隆	同上	黒田庄中学校PTA副会長

藤原英典	同上	身体障害者福祉協会分会長
村上雄三	同上	消防団第7分団副分団長
藤原泰和	同上	スポーツ振興会会長
村上享平	同上	スポーツクラブ21 さくら代表



「まちを再発見しよう」(8月)を終えて記念撮影



くろっこ会議